

## 感想・メッセージ

### 地域医療講演会 I

菅家智史先生

- ・ とても地域の人が好きなんだなと感じました。だから、地域医療も好きなんだろうと思いました。すごいですね。これからも、がんばってください。

遠いところ、ありがとうございました。とても心温まるお話でした。

- ・ 地域医療についてなかなか考える機会がないので、只見町の具体的なお話をいただき、良くイメージすることができました。ありがとうございました。
- ・ 家庭医の特徴として患者本人だけでなく家族のことについても考えなくてはいけないということを知りました。

年代、分野を問わず診なくてはならないというのは、非常にストレスがたまることかと思いますが、最も医師らしい医師であると思います。

限られた人的資源を有効に活用するために「休むときには休む」という考え方は大事だと思います。災害時にすべきことについてフェーズ毎に、きちんと決めておくことは非常に重要だと思います。

- ・ 被災地である福島県の現状を知ることができました。  
除々に復興してきているとはいえ、原発の問題も解決していない状況で大変だと思います。  
住民のかたにとっては、先生方の存在は大変大きく感じていると思いますので、今後も頑張ってくださいと思います。本日は、ご講演ありがとうございました。
- ・ 医師不足で病院が休止とありましたが、その町民の方は数ヶ月実際に、病院へは、1時間～1時間半かけて行かれた方がいたのかと思うと、とても重大なことだと感じた。ましては、町民の方は、高齢者の方がほとんどで、どのような交通手段で、行かれていたのかと、少し疑問に思いました。とても貴重なお話をありがとうございました。
- ・ 災害時の状況を教えて頂き、本当にありがとうございました。  
現地の事が何も分からずにいましたが、遠くからでも何かお手伝いできればと思いました。  
生の声を聞かせて頂き、とても学ぶ事が多くありました。  
これからも、お身体を大事にして頂き、頑張ってくださいと思います。
- ・ 災害地で市民のみなさんのために働く姿は（家庭医として）素晴らしいと思いました。これからもがんばってください。
- ・ 地域医療はとても大切なもので、今後の日本で最も大事なことなので、末長く仕事をしていただけたらと思います。今後も全国に話を進めていただけたらと思います。
- ・ 地域で働いている先生方には本当に頭が下がる思いで聞いていました。これからも頑張っ

しいと思います。

- ・ 東日本大震災を経験された医療従事者の生の声がきけてよかったです。  
高齢者を抱える小さな町で、医師を勤めることは大変だと思いますが、町のみなさんのためにも安全で安心できる医療提供をしてください。
- ・ どの地域医療も、同じような悩みがあるのだと思いました。  
福島での原発の問題は、まだまだあると思いますが、体には気をつけて頑張ってください。
- ・ 遠いところ、ありがとうございました。現実的なお話が聞けて良かったです。
- ・ へき地の病院で奮闘されている先生のお話を伺い、地域医療に携わるやりがいと再認識できました。
- ・ 参考になる講演をありがとうございました。  
つながりを持った生活が、大切であることに改めて気づくことができました。  
これからも健康に気をつけて頑張ってください。
- ・ へき地医療の大変さを改めて感じました。先生の地域に対する思いを聞くことができよかったです。遠い所からありがとうございました。お疲れ様でした。

## 地域医療講演会 II

中村伸一先生

- ・ 中村先生の迫力（テンション）がすごくて圧倒されました。
- ・ 先生の講演を楽しみに今回参加しました。  
唯一の医師として診療所に勤務することは、とても大変なことが多いと思いますが、それ以上に地域医療の魅力を一層感じました。先生のように、たくさんのごことを成しとげることは難しいですが、地域住民の1人として信頼される医師になります。ありがとうございました。
- ・ 素晴らしい講演でした。ありがとうございました。
- ・ 絆の力が全国で戻るためには、1人1人根気強い活動が必要になるのだと思います。  
先生方の話で勇気づけられました。微力ですが、頑張っていきます。」
- ・ 先生の話をも初めて聞かせて頂き、大変勉強になり、感動しました。  
貴重なお話ありがとうございました。
- ・ これからも医師として働いていく中で、自分なりに大切な物を見つけ、目的を持った診療を行っていきたいと思います。本当にありがとうございました。
- ・ おおい町でのたくさんさんの“物語”をありがとうございました。  
地域に寄りそうとはこういうことなのかと、自分が体験したかのように感じる事ができました。
- ・ テンポ良く、へき地医療の魅力を伝えられる Heartfull な講演でした。

- ・ ネガティブ思考→ポジティブ思考  
状況は変わらないけど考え方は変えられる。
- ・ 大変楽しかったです。看取りの話をたくさん聞いて、とても感動しました。  
とても理想的だと思いますし共感します。先生のような診療所の医師がこの地域にもいたら在宅看取りまで私達看護師も、もっとよりそえると思います。  
今は、制度上で難しいところがありますが、少しずつ看取りに近づけるように日々頑張ります！
- ・ 大変感動しました。
- ・ 症例が多い講演でとても興味深かった。
- ・ 「人生にガイドラインはない」大変共感します。それが、在宅医療の“だごみ”ではないでしょうか。ありがとうございました。  
絆はなくなったのではなくかかれていた。地域に携わる先生は、皆さん話がとても上手で、ユーモアがあるという印象を新たにしました。  
認知症の肺癌の方を最後まで、在宅で看取られたお話とその写真が一番心に残りました。ありがとうございました。
- ・ 地域医療に元気もらいました。絆で頑張ります。

#### へき地研修卒業生によるシンポジウム

##### 種田知瑛子先生

- ・ 地域医療の現場にいる研修医の目線からの講演だったので良かったです。
- ・ 笑顔が素敵でした。  
地域医療の魅力がコンパクトに伝わってきました。

##### 山内祐樹先生

- ・ 具体的で分かりやすかったです。
- ・ 話が上手。産科での実例が多く聞くことができました。へき地・離島での問題、それに対する意見を聞いたので良かったです。
- ・ とにかく、お話が面白かったです。先生がしたいことという軸が腑におちました。
- ・ 1人で麻酔・手術をしなければいけないのは、とても大変だと思います。産婦人科不足が少しでも改善されるといいですね。

##### 井上 祥先生

- ・ 情報通信技術と医療との連携の将来が少し見えそうな気がします。
- ・ 平戸で学べることの大切さが良くわかりました。
- ・ 医師として働きながら、通信機器等を通しての医療に携わっているこれからの未来に対応できるシステムを作っていくてください。

## 職員向け講演

調 漸先生

- ・とてもおもしろかったです。  
主題よりそれた話もっと聞きたかったです。
- ・ユーモアがあり、とてもおもしろかったです。またお願いします。
- ・貴重な内容でとても学習できました。次回もお願いします。
- ・地域と医療について幅広く解かりやすく講義され、とても充実した時間を過ごしました。

## シンポジウム

小野隆司先生

- ・離島サミットを機に各関係機関が動き出した下りに感動しました。
- ・馬力ある先生のコメント、熱い思い、やる気に圧倒された。
- ・へき地の医療を支えていくだけでも必死だと思いますが、社会貢献もされていて、すごいパワーを感じました。災害支援は大切だし、行ってあげたい！と思ってもなかなか行けない。その実践がすごいと思う。

中里未央先生

- ・コンパクトなコミュニティほど、医療-福祉-介護の全体像がみえやすいこと、共感しました。
- ・包括医療で医師の役割は重要です。そのようなコーディネーター役に興味がある医師がたくさん育成されるといいですね。

八坂貴宏先生

- ・マンパワーって大切ですね。共感します。奨学制度、検討してみたいですね。
- ・地域医療に対する思いがすごく伝わった。
- ・解決しない問題にもとりくみ続ける。ということはプライマリ・ケアの重要な役割と感じました。

押淵 徹先生

- ・地域で必要とされる医療を知ること、表面的なニーズ、隠れたニーズ、いつも問い続けなければならない事と念じました。
- ・包括医療について学生さんたちが少しでも実感していただけたのではないかと思います。  
目の前の患者だけではなく予防・在宅をみすえていただける様になってほしいです！
- ・これまでの市民病院の方向性を確実なものにしてきた実績からもわかるように、地域医療の最先端を走る先生に更に頑張ってもらいたいと願うのみです。

## 訪問実習体験の感想

### 訪問診療

- ・ 実際に居宅へ訪問させて頂き、診療ではバイタルサインをはかったり採血をさせて頂きました。先生の訪問診療を見させて頂くのは初めてで、患者さんの身体状態だけでなく、生活環境についても見る事ができ、家族の方の状況も見る事ができました。訪問診療に行く前は、平戸のような島には大切だろうなと思うぐらいでしたが、1ヶ月に1回の診療の大切さをより感じる事ができました。貴重な経験をありがとうございました。
- ・ 実際に訪問診療実習を行って、一番に患者さんさらにはその家族との会話を大事にしている点が印象に残りました。ご家族の方が患者さんのケアでやるべきことができているなら、ほめるとするのは、ご家族の方にとっては絶対に嬉しいと思うし、今後のモチベーションも上がるだろうし、すごくいいことだと思います。そういう役割も医師にはあるんだなと感じる事ができました。
- ・ 初めて、訪問診療をみさせていただいて、訪問看護、リハビリテーションとは違った医師が主体となって診療していく姿をみる事ができました。患者さんは慢性疾患を持つ方が多く、通院が容易ではなく、高齢の方が多かったです。定期的に患者さんをフォローアップしていくので、些細な体調の変化にも注意し、肺炎や褥瘡などを見逃さないよう、丁寧な診療を迅速にできるようにならなければならないと思いました。特に病院と違い、やや騒しいなかで行われなければならないので、慣れも必要だと思いました。また、医師の診察をもとに、看護師さんやケアマネージャーさんが計画をたてていくので、とても重要なものだと思います。末期の患者さんが多い在宅診療において、患者さん本人の精神的ケアだけでなく、介護している家族の状況も把握し、適宜、ディケアをすすめたりする必要性もあると感じました。とても良い経験となりました。
- ・ 実際に訪問診療をみるだけでなく、実際に問診などもさせて頂き、とてもよかったです。なかなか福岡にいたるだけでは見ることのない部分だったので、知ることができてよかったです。
- ・ 思っていた以上に患者さんのご家族が前向きで明るい感じがしました。寝たきりの患者さんでも悲壮感や暗い印象はあまり受けなかった。こういうのも、医師や看護師の方が患者さん（とその家族）から信頼されて、訪問を喜ばれているだろうと思った。患者さんとのコミュニケーションで患者さんを和ませて診療されていたのが印象的で自分自身も、訪問診療に携わるかどうかは別として、そのような医師になりたいと思いました。  
親切に受け入れて下さった患者さんとその家族に感謝したいです。
- ・ きちんとお世話がされているなと感じる家族の患者様ほど数値がよかった気がします。お世話する方の病気に対する理解も重要なかもしれないと思いました。（特にDM）

- ・往診との違いがよく分かった。器具はほとんど持っていかないで、たくさんの知識を頭に入れて診療に行くことが必要だと思った。医師は患者さんと接する機会が少ないので、介護をしている家族の方ともよく話して状況をつかむことが必要だと思います。
- ・訪問診療の現場を見学してみて、想像以上に難しそうだと感じました。患者本人だけでなく、家族にも、その時の様子を詳しく聞き、また介護の大変さにも気遣って、励ましの言葉をかけている姿がとても印象に残りました。
- ・患者さんに合わせて、家の中がいろいろ整備されているのが印象的だった。(ベット、手すり、電話、etc・・・) 中桶先生の患者さんとのコミュニケーションが、明るく楽しいので患者さんだけでなく、ご家族で楽しそうだなと思いました。限られた設備、道具、時間の力で患者さんの状態を把握し、信頼関係を築くのは難しいのかなと思った。患者さんと家族のケアをほめるのは、すごく効果があることに実感しました。どの患者さんも複雑な家庭環境をもたれていることを実感。子供の表彰状や竹刀や古い写真があったり・・・そういう患者さんにとって大事な場所に足を踏み入れさせていただいたことに感謝。

#### 訪問看護

- ・実際に訪問看護をしている看護師さんを見ていて、普段からどういう生活をしているのか、患者さんが興味のあることなどをとてもよく知っていて、患者さんととても近い感じがしました。日常の会話を通して状態を知ることが魅力だと思いました。
- ・訪問をして医療を行う目的は患者さんの体調管理だけでなく、ご家族の精神的ケアも含まれるということを改めて思いました。自宅を訪問することには、患者さんもご家族も本心を話しやすいという利点があると思います。
- ・看護師の方や医師の方が訪問することで、負担が分散するようにしているのだと思った。家で介護している人と、看護師の方とが話すことで家で介護をしている人にストレスが溜まりすぎないようにしていると思った。(共感することでストレス解消?)
- ・慢性の病気を持っている患者さんにとって、病院に行くだけでも困難であったり、家族が大変だったりするので、訪問看護をうけることができるのは、とても助かると思う。また、医療者側にとっても、患者さんの生活に実際に触れることができるので、患者さんが日常生活を送る上で何を必要としているのかが見えてきやすいので、ニーズに沿ったサービスが提供できやすいと感じました。患者さんの日常の姿を見ることができ、やるがいがありそうだと感じました。
- ・初めて訪問看護について行き、見る経験をさせていただいた。(膀胱の感染予防のための洗浄、タンを取る、お通じの処理など) 多くの経験が初めてさせていただいたものであった。まだ(医学部) 1年でできることはほとんどないという印象を受けたが、この3日間、1つでも多くのことを学びたいと思った。

- ・訪問診療と病院での問診の違いは、処置具に関してが多いと思った。例えば、湿布にしても病院内に用意されているが、訪問のときには、あらかじめ患者さん（の介護者）に渡してあると、どこにしまっているか医療従事者には分からないとか、医療機器の持ち運びの問題だと思う。一番大切なのは患者さんの過ごしやすい状況を作る（＝ＱＯＬの向上）だと思った。
- ・今まで訪問診療と往診は同じものだと思っていましたが、実際に訪問診療に試してみても全く違うものだとわかりました。訪問看護では私が今まで想像していたのと違って、病院に入院している人がうけるのと同じサービスを、病院にこれない人にも定期的に提供するという感じでした。治療や投薬ではなく、バイタルや体ふき、排尿、排便などをしていました。今回は訪問看護を体験したので、次は診療リハビリも見学してみたいと思いました。
- ・今回初めて訪問看護に同行して、医療職者を患者さんの距離が近いと改めて感じました。訪問看護では、看護師さんの方が患者の家族や趣味などを詳しく把握されていたことが印象的でした。また、処置後にすぐ帰るのではなく、趣味の話をする事でコミュニケーションをとっていたことも印象的でした。訪問診療は医師と看護師でするものだというイメージがありましたが、今回訪問看護に同行し、訪問診療にも様々な形があると感じました。
- ・患者さん宅にたどりつくまでに平戸市民病院が訪問診療を請け負っている範囲が車で片道30～40分、1時間弱の範囲と聞き、その広さに驚きました。実際、平戸に入ってから病院に着くまで他に病院、医院を見なかったのが、これが長崎市街地とは異なる現状なんだと実感しました。看護師さんは患者さんとそのお部屋に慣れていらっしやってバイタル、水分IN・OUTの確認やアドバイスから清拭まで気がつけば一通りが終わっていました。清拭は私たちもお手伝いさせてもらいました。病棟でもそうですが、ベッドの上だけで患者さんの体を洗いあげる技術は見事でした。今回は患者さんのお部屋が改築中でした。そうした情報が得られるのも「訪問」ならではのと思いました。
- ・訪問看護に初めて行きました。ある患者さんは趣味で編み物をしていたので、そのお話をして帰りました。寝たきりで動けないけど、手はしっかり動かしていたので、いいリハビリになるなと思いました。すごく難しそうなお編み物で、私も教えてもらいたいなと思いました。訪問看護をすごく楽しみにしている感じでした。
- ・患者さん1人1人の家庭事情、社会事情を考えた看護を行っていると感じた。患者さんの事をよく理解していないとできない事だと感じた。御家族の方とどのように介護していくのかをしっかりと話し合い、実行していくことが必要であると感じた。

## 訪問リハ

- ・訪問リハビリは初めてでしたが、患者さんとの関わりや状態を把握することに関しては看護も同様だと思いました。今回、一番学びになったことは、リハビリは在宅に戻ってからがリハビ

りであるということです。患者様は脳梗塞を発症し、左麻痺の方でした。2ヶ月前まで、ほぼ臥床状態だった方が、自分で装具をつけ、杖歩行し、庭を歩いていました。その光景を見て、病院でのリハビリは本当のリハビリをするうえで、基本となることであり、機能を高める訓練であるということを知りました。私は、回復期リハビリ病棟に勤めており、患者さんがその人らしい生活を送れるように関わることがリハビリと思っていました。リハビリには、そのようなことも含まれるとは思いますが、患者様が在宅に戻り、リハビリをできるように支援していこうと思いました。

- ・リハビリということで、主に機能回復のための練習を行っていた。具体的に行ったことは、血圧を測定したり、坂道を用いて歩行訓練を行った。会話の中ででてきた“日曜日を充実させるために、月～土曜日にリハビリを行うのだ”という言葉が印象的であった。
- ・血圧測定、家の前の庭（坂道）の歩行訓練、マッサージなどの内容を学んだ。  
血圧測定では、初めて器具に触れ、血圧を測らせてもらった。また、理学療法士の方によると、リハビリというのは病院の専門の部屋で行う訓練だと思われがちだが、本当は病棟や自宅で日常生活を自力で送れるようにすることであると言っていて、とても印象に残った。
- ・血圧を聴診器でききながら測ることは初めてだったので、いい経験になった。リハビリは機能的な回復一片等ではなく、日常生活を豊かにする目的をもってすることが大事だと思いました。